

## 4. ケース・スタディのまとめ方

## はじめに

- 経営学研究で近年数多く用いられるケース・スタディ（事例調査）
  - 研究調査方法として
  - 現実からのレッスンとして
- 事例調査のまとめ方について紹介する

## 目次

1. ケース・スタディとは
2. 強みと批判
3. 設計と理論との関わり
4. 実施とデータ収集
5. 分析とレポート作成

## 1. ケース・スタディとは

- 事例研究法
- 一つまたは一定の限られた数の複数の事例に焦点を当て、ある問題や現象に関する理解を深める方法（Robson, 1993）
- 他の方法
  - 実験
  - 大量調査
  - フィールドワーク（エスノグラフィー）
  - アクション・リサーチ
  - 横断的調査 / 縦断的調査

## ケース・スタディの技術的定義

1. 経験的探求
  1. 現象と文脈の境界が明確でないときに、
  2. 現実の文脈で起こる現在の現象を探求
2. 探求の仕方
  1. 変数を数多く含む特有の状況
  2. 三角測量法
  3. 開発済みの理論命題から便益

## ケース・スタディの注意点

- 教育的ケースと研究的ケースの違い
  1. 教育的ケース
    - 厳密性の低さ、例としての重要性
  2. 研究的ケース
    - 厳密性の高さ、事例としての普遍性もしくは特殊性
- 必ずしも定性的調査ではない
  - 定性的（qualitative）+ 定量的（quantative）

## 2. ケーススタディの強み

- 探索的 / 記述的 / 説明的
- 強みを持つ条件
  1. あまりにも複雑な現実での因果関係の説明
  2. 現実の文脈の記述
  3. 記述的に描写
  4. 明確な単一の結果群を持たない状況の探索
  5. メタ評価に関わる研究

## ケーススタディへの批判

1. 厳密さの欠如
2. 科学的一般化の不足
  - 分析的一般化、統計的一般化
3. 時間がかかり、記述量が多く、読めない
4. すぐれたケーススタディは難しい

## 3. 設計と理論

- 設計
  - 経験的データをリサーチ問題に、その結論に結びつける論理化の過程を作り出すこと
    - 論理的な証明モデル
- 設計要素
  1. 研究問題
  2. 命題(あれば)
  3. 分析単位
  4. データを命題に結びつける論理
  5. 発見事実の解釈基準

## 設計のタイプ

	単一ケース	複数ケース
全体的 (単一分析 単位)	TYPE I	TYPE III
部分的 (複数分析 単位)	TYPE II	TYPE IV

## 調査法を支える理論

- 理論検証型
  - ある公式理論の検証
  - 理論開発型 (Yn)
    - ある理論を前提に設計、対立理論の検証と対比しながら、理論の開発に役立つ
    - 記述理論
- データ対話型理論 (grounded theory)
  - 現象に関わる事柄をデータとして読みとり、データの相互作用から理論を生み出すやり方
  - エスノグラフィーなどに多い  
(Glazer & Strauss, 1967=訳1996)

## チェックポイント

- ケース・スタディのテスト
  - 調査のチェックポイント
    - 構成概念妥当性 (測定概念の妥当性)
    - 信頼性
  - データのチェックポイント
    - 内的妥当性 (データの内的一貫性)
    - 外的妥当性 (一般化可能性)

## 4. 実施とデータ収集

- 必要なスキル
  - 問題の発見
  - すぐれた聴き手
  - 適応性と柔軟性
  - 課題の把握
  - バイアスの除去
- 実施の手順
  - 目的確認
  - フィールド選択
  - オリエンテーション
  - アポイントメントと準備
  - 現場への訪問
  - 草稿のレビューと承認
  - 次のフィールドとアポ
- パイロット・ケースの意味

## データ収集の手法

- 6つの情報源
  1. 文書
  2. 資料記録
  3. 面接
  4. 直接観察
  5. 参与観察
  6. 環境

## データ収集の3原則

1. 複数の情報源
  - 三角測量法(データ、研究者、理論、方法)
2. ケーススタディデータベースの作成
  - ケーススタディノート
  - ケーススタディ文書
  - 表資料
  - 叙述
3. 情報の連鎖の維持

## 5. 分析とレポート

- 二つの分析戦略
  1. 理論命題への依拠
  2. ケースの記述開発

## 分析の手法

- 分析手法
  1. パターン適合
  2. 説明の構築
  3. 時系列分析
- 4. ケース・サーベイの実施
  - 定量的データと定性的データの結合
- 5. 部分的全体単位との結合
- 6. 反復観察

## レポートの作成

1. 読者の定義
2. レポートの種類
  1. 書面 / 非書面
  2. 例示構造
    - 線形分析 / 比較 / 年代記 / 理論構築 / サスペンス / 非連続
3. 作成手続
4. 分析の開始と共に
  - 実名 / 匿名
  - レビュー
5. 模範的ケーススタディ
  - 重要、完全、代替的視点、十全な証拠、魅力的

## 学術的な事例報告書の例

1. 研究課題
2. 研究方法
3. 研究命題
4. 事例選択の理由
5. データと命題との関連性
6. 発見した論理の解釈基準

## レポートのポイント

1. 問題意識（序論）
2. 背景  
（企業の概要、事例の背景）
3. ケースの経緯、展開
4. キーとなるコンセプトや理論
5. それにもとづく解釈
6. 結論

## まとめ

- ケース・スタディに基づく経営研究の実践
  - 経営手法：ベンチマーキング、ベスト・プラクティス、ナレッジ・マネジメントでも利用
- 企業についての自分自身で考え、まとめ、他人に表現する

## 参考文献

- ロバートK. イン（近藤公彦訳）『ケース・スタディの方法』 東京：千倉書房、1996年。
- B.G.グレイザー，A.L.ストラウス（後藤 隆・大出春江・水野節夫訳）『データ対話型理論の発見：調査からいかに理論をうみだす』、東京：新曜社、1996年。